

燈々会だより



No. 39

令和4年3月発行

発行人 安達 ミチ
編集発行 新潟県在宅保健師の会「燈々会」
新潟田市中野5 ☎(0254)41-2501



都道府県及び東北地方在宅保健師等会連絡会議が リモート方式で開催

会長 安達 ミチ

皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染禍の中、日常生活に留意しつつ活動されていることに感謝申し上げます。今年度、当会は東北地方代表として国保中央会理事長から都道府県在宅保健師等会全国連絡会役員を委嘱されました。11月に初会合が開催され、7名の役員から正副会長選出と活動報告及び今年度全国連絡会の内容の決定と、昨年同様DVDに収録し全国配布することが決定。嬉しいことに当会佐渡支部の「島の保健室」が事例発表に選出され、活動が全国に発信されました。

また、国保中央会からは「高齢者保健事業と介護予防の一体的実施事業」の現状と課題として、令和3年度中に全国半数の市町村で、令和6年度には全ての市町村で実施をめざしているが、市町村では医療専門職マンパワー不足があげられた。検討事項として在宅保健師等会がどのような支援が出来るか、支援にあたり想定される課題や国保連合会に期待することは何か？との提言がありました。この件については国保連合会と連携を密にし、情報提供とご指導をいただきながら、当会の関連事業を考える機会にしたいと考えています。そして、昨年度中止になった東北地方在宅保健師等会連絡会議が12月にリモート方式で行われました。特別講演として「島の保健室」立ち上げの経緯と感染流行下での活動状況が土屋支部幹事から優しい語りと美しい映像と共に報告されました。国保中央会三好保健事業専門幹からは独自事業に対する興味と幅広い活動に高い評価をいただきました。各県からは、新型コロナウイルス流行下での活動について発表がされました。詳細は支部幹事から報告されることと思います。

新型コロナ感染症の収束はなかなか見通せない状況下ですが、どうぞ新生活様式を今一度見つめなおし乗り切りましょう。令和4年度が会員の旧交が温め合える年度になることを切に願っています。



令和3年度 新潟県在宅保健師の会「燈々会」総会
令和3年4月27日 於：新潟県自治会館別館

会員数 109名
(令和3年12月末現在)

contents

会長あいさつ 1頁
令和3年度総会報告等 2頁
東北地方在宅保健師等会
連絡会議報告 3～6頁

ブロック別研修会報告 ... 7～8頁
新型コロナウイルス禍における
支部及び行政の動き
..... 9～10頁

米寿を迎えて、会員のひろば
..... 11頁
庶務報告等 12頁

令和3年度 総会報告

副会長 永戸恵子

4月27日(火)新潟県自治会館別館に於いて、燈々会総会を開催した。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況から、総会出席者は各支部から支部幹事を含めた2名とし、当日欠席者からは、会則第7条により委任状を提出していただき開催した。支部幹事及び会長に議決権を委任された者を含め100名で成立した。

来賓挨拶を新潟県国民健康保険団体連合会 保健事業課 課長 戸枝芳朗氏とえだ よしあきから祝辞を頂戴した。

会員1名のご逝去を悼み黙祷し、慶祝会員への祝意と記念品の贈呈を行った。

協議事項では、令和2年度事業報告・決算報告・委員会報告と、研修旅行・保健師派遣・多数事業中止の報告があった。3年度事業計画(案)及び予算(案)の審議。質疑応答を経て可決した。役員改選は、原案通り可決された。例年行われていた午後からの記念講演会は、今年度も中止とした。

令和3年度 総会来賓挨拶

新潟県国民健康保険団体連合会
保健事業課 課長 戸枝芳朗氏とえだ よしあき



日頃より、在宅保健師の会「燈々会」の皆様におかれましては、本会の保健事業、また地域住民の健康保持・増進に格別のご支援・ご協力をいただきまして、敬意を表しますと共に厚く感謝いたします。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、収束の目途はたっておらず依然として厳しい状況にあります。本県においても連日数多くの感染者が発生しており、予断を許さない状況が続いているところです。

さて、国が示した「骨太方針2021」では「感染症を機に進める新たな仕組みの構築」を掲げました。具体的には、「コロナ禍で新たな健康課題が生じていることを踏まえ、重症化予防のため、上手な医療のかかり方の普及啓発を引き続き行う」ことや、「健診・検診の受診控えに関する調査を踏まえ、新しい生活様式に対応した予防・重症化予防、健康づくりを検討する」ことを掲げております。

また、全世代型社会保障改革の方針では、健康無関心層を含めた疾病の発生予防や重症化予防に向けた取組みを推進すると共に、都道府県の役割として、市町村が行う保健事業を更に適切かつ有効なものとするために、助言や支援ができるようコミュニケーションの強化が求められております。

こうした状況のなか、「燈々会」会員の皆様が各ブロックで活動しております、研修会や新規会員確保に向けての組織強化、関係機関との連携、またワクチン接種関連業務などの個人活動は、地域で暮らす住民の健康づくりに大変重要な役割を担っていると考えます。

本会では、様々な専門職や団体等が連携・協力し地域全体で予防・健康づくりを進めることで健康寿命の延伸につながることを考えます。

今後も、会員の皆様の地域保健活動を支えるため、連携を図り、本会主催の「市町村保健事業従事者研修会」や、新潟県国保診療施設協議会主催の「医療セミナー」など、各種研修会を開催し情報提供を行ってまいります。また、コロナ禍で様々な事業が中止・縮小されているなか、在宅保健師として積極的に市町村保健事業に関わっていただけるよう、きめ細かい市町村支援を行ってまいります。

皆様方がこれまで培ってこられた知識や経験を活かし、地域の保健活動の推進に協力できるよう、本会も体制整備に努めていきたいと思っておりますので、引き続き、国保連合会保健事業のご支援・ご協力をお願いいたします。

最後に、新潟県在宅保健師の会「燈々会」の益々のご発展と会員皆様のご健勝、ご活躍を心からご祈念申し上げご挨拶とさせていただきます。

【第一部】

講演
1

「在宅保健師等会における活動について」

講師 国民健康保険中央会
保健事業専門幹 三好ゆかり 氏



保健事業を取り巻く国の動きについて ～データヘルス改革を中心に～

厚生労働省は、2040年を展望し、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現のため【健康寿命延伸プラン】を策定。このプランでは、①健康無関心層も含めた予防・健康づくりの推進、②地域・保険者間の格差の解消に向け、「自然に健康になれる環境づくり」や「行動変容を促す仕掛け」など「新たな手法」も活用し、Ⅰ.次世代を含めたすべての人の健やかな生活習慣形成等、Ⅱ.疾病予防・重症化予防、Ⅲ.介護予防・フレイル対策、認知症予防の3分野を中心に取組みを推進している。

令和元年度には、「医療保険制度の適正かつ効率的な運営を図るための健康保険法の一部を改正する法律」が閣議決定され、データヘルスの基盤となるオンライン資格確認の導入や、制度をまたいだデータ解析が可能となる法改正等、これまで難しかった情報の連携や活用が法律に位置づけられたことで進められるようになった。また、令和2年度には、「全世代対応型の社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律」が閣議決定され、人生100年時代の到来を踏まえ働き方改革を行っていくものとした。今後、オンライン資格確認等システムやマイナンバー制度等の既存インフラを最大限活用しつつ、①全国で医療情報を確認できる仕組みの拡大、②電子処方箋の仕組みの構築、③自身の保健医療情報を活用できる仕組みの拡大について、必要な法制上の対応を行ったうえで、令和4年度中に運用開始を目指し順次拡大していく。

コロナ禍における保健活動について

保健師には一般的に、対人支援能力、地域支援・地域管理能力が求められるが、コロナ禍での健康支援のような「不確実性」の高い問題にも応えられることがプロフェッショナルとして期待される。具体的には、保健事業における技術面・体制面での不安や問題意識を明らかにして共有する事が重要となる。例えば、根拠を確認することにより解決可能な問題なのか、個別性や状況に応じた対応が必要な問題なのか、経験や事例に学び自分達の中に考え方を明確にする場とその過程が必要である。また、本日のような場も含め、異なる専門職・機関・分野に属する二者以上の援助者が、共通の目的・目標を達成するために連携・協力を通じて問題解決及び活動推進を図っていく機会も重要である。最新のニュースや内閣官房等、政府情報などエビデンスの高い情報も活用し、保健活動に活かしてほしい。

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について

国民健康保険、後期高齢者広域連合、介護保険の3つの保険者で独立した事業について、それぞれの保険者機能を強化しつつ、連携した事業+地域づくりを目指している。

「在宅で自立した生活がおくれる高齢者の増加」を最終ゴールと考え、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施では、若いころからの生活習慣病等の重症化予防や加齢に伴う心身機能の低下等の複合的な健康リスクに対する健康支援、高齢者の健康状態・フレイル状態、生活状況等の包括的な把握など、国保・ヘルス・介護予防と連携した幅広い健康支援の取組みが必要となっている。

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の実施状況では、令和3年度中に全体の約5割の市町村で実施される予定となっている。また令和6年度までに全ての市町村において展開することを目指している。関係職種や関係部署が多く骨の折れる取組みとなっているが、協力要請があれば在宅保健師等のみなさまにも介入のご協力をいただきたい。



講演 2

佐渡支部の「島の保健室」 の活動について

佐渡支部幹事
土屋 貴子



はじめに

佐渡市は日本海側最大の島で、周囲約280km面積は東京都の約1.5倍。平成16年10市町村が合併して一島一市となった。日本海の寒流暖流が交わり気候も穏やか、海の幸山の幸に富み、熊・猿・鹿・猪などの害獣もおらず、稲作や果樹・野菜栽培に適している。古くから金・銀を産出する天領の島として繁栄し、鉱山労働者の生活を支える第一次産業や運輸業、風光明媚な土地柄を生かした観光業などが主な産業であった。しかし、金銀山は枯渇し観光資源としての役割のみとなり、戦前から第一次産業に従事していた者も高齢化に伴い引退し、跡を継ぐベビーブーム世代も年を重ね産業の維持は気力・体力勝負になっている。昨年からの感染症の影響もあり観光業関連の収益も落ち込んでいる。島の長い歴史とともに培ってきた「能」「文弥人形」「鬼太鼓」などの伝統芸能、地域に根ざした祭り文化の伝承も、人口減少や新型コロナウイルス予防に伴う新しい生活様式のもとでは存続の危機である。

動 機

合併当時は7万人だった人口は、現在5万2千人となり高齢化率も今年3月31日の統計で41.9%と、数十年後の日本の人口構成を先取りしている。人口減少の要因として考えられることは、主幹産業の衰退と求人の減少・収入の少なさ・中等教育終了後の進路の選択肢の少なさ・未婚者の増加そして出生率の減少などがあげられる。ちなみに令和2年度の出生数は240人だった。近年は少しずつIターン・Uターン・孫ターン等で移住してくれる若者も増えて、新しいスタイルの農業を始めたり、農村地帯にある空き家を改装してカフェをオープンしたりという動きもあるが、圧倒的な人口減少には追いつけない状況といえる（トキだけはこの環境を謳歌して順調に増えている）

ここでの保健師の仕事とは、衰退の一途をたどる島の現状を見つめつつも、それぞれの世代・それぞれの生活環境に応じた健康な暮らしを支援し、住み慣れた場所で一生を終えたいという思いに寄り添うことであり、近年叫ばれている「地域包括ケアシステム」の構築は昔からここで保健師が行ってきた活動そのものともいえる。現状を何とかしなくてはいけないという思いが生まれるのは自然なことだった。

「燈々会」の存在

定年を迎え一旦職場を退いても、保健師は保健師。経験豊富な人材を放置するわけではなく、多くの会員が在宅といえども現場に協力して現役と机を並べて活動している。この会に入会したことで、他市町村・保健所等で活躍してきた仲間と交流し、情報交換をしたり、積み重ねてきた経験を語り合ったりすることができた。研修を通して最新情報を得たり、現役時代とは異なる新たな刺激をもらう事が出来るのである。また、少し離れた視点から地元を見る事にもなり、佐渡支部として何が出来るかを具体的に考えることにつながっていった。



*受付に佐渡Uターンサポートセンターのポスターを張ってくれました。「40年後の茶飲み友だちをここで」というキャッチフレーズが、ほっとハウス青木のコンセプトにもマッチして素敵ですね。

踏み出すきっかけはそこに

人口減少はまた多くの空き家を生み出していた。跡継ぎがないことからやむなく手放した家、無人のまま放置された家などまだまだ使える物件の宝庫。手狭になった自宅の物置代わりに近所の古民家を手に入れようと思ったことが一歩を踏み出すきっかけになった。公の場所を借りるのが結構面倒くさいのを知っていて、気軽に使える場所さえあればできることがたくさんあるのを知っているのも保健師。

場が生み出す人の力



* 9月7日に行われた佐渡市インターンシップ参加者の説明会(U1ターンの様子)

二つのSが見つからないと人はSOSを発するという。一つは「space スペース=自分らしくいられる気持ちの良い居場所」、もう一つは「stage ステージ=自分の役割や存在価値を認識できる出番」二つのSを見つけた人たちは進んで何かを発信し始める。新型コロナウイルスが蔓延する中でも、ゆるやかに居心地の良い場所を専門職としての保健師の視点で安全に提供し続けることで、我々も在宅保健師として地域のお役に立っていると思え自己肯定感が得られる。ここを利用した人たちもまた新たな場の活用方法を提案してくれるようになっていく。この場所があるから佐渡で暮らそうという人が増えるように、力まず、まずは継続をめざしたい。

【第二部】 各県の発表

◎新潟県在宅保健師の会「燈々会」【会長】安達ミチ 【会員数】110名(R3年8月末現在)

- 燈々会だより(R3.3発行)にて、コロナ特集号として保存版18ページを作成・配布。会報に掲載することで会員が地域の茶の間等、地域保健福祉活動等に活用している。
- 地域の茶の間事業では、会員が実施するお茶の間6か所中1か所がR2年に新規開設している。コロナ禍にあっても地域の住民が寄り合う大切な場として感染予防に細心の留意を払いながら実施している。
- 介護予防事業としては、フレイル高齢者を対象に、地域包括支援センターが行う教室に、栄養士や理学療法士等と一緒に協力している。R2年度はおおむねの活動がコロナの影響で前年度比の6～7割に減少した中、介護予防事業は3倍、お茶の間サロン事業は1.5倍に増加していた。
- 粟島浦村支援活動：看護職が少ない離島を支援するため、H22年から会員の派遣が開始され、特定健診及び指導会に従事している。

◎山形県在宅保健活動者連絡協議会(いつわ会)【会長】水上由美子 【会員数】222名(R3年9月現在)

- 役員会や研修会は、コロナ禍において中止や書面開催となった。
- 特定健診・特定保健指導受診率向上対策事業への協力として、H24年から市町村に協力している。R2はコロナでスタートが遅れたが、概ね予定通り実施できた。
- 救護活動、高齢者地域サロンにおける健康教育等では、R2は中止が多く活動実績は減少した。R3は救護活動依頼が徐々に増えてきているが、主催者に感染防止対策の徹底をお願いしている。
- 会報の発行、会員活動アンケート調査
- 新型コロナウイルス感染症に係る支援として、IHEATに32名の会員が登録した。保健所から支援要請があり保健所にて活動、またR3は市町村のワクチン接種への協力を行った。

◎秋田県在宅保健師等ゆずり葉の会【会長】太田敦子 【会員数】81名(R3年7月現在)

ゆずり葉の会では県が発するレベル状況や発生状況を勘案しながら事業を進めている。コロナ対策事業に関しては、会員個人が個別に自治体等からの依頼を受けて従事しており、今のところIHEATの活用実績はなし。当会の事業は主に会費で事業を実施する「自主事業」と、業務を受託して実施する「受託事業」に大別される。

- 自主事業：総会、役員会、地区幹事会、会員研修、交流会、いきいき百歳体操の普及、機関誌発行等。
- 受託事業：①後期高齢者医療広域連合からの訪問指導事業(頻回・重複・多受診、多剤服用、高血圧未受診)、②3自治体からの「保健事業と介護予防の一体的実施」(ハイリスクアプローチ：頻回・重複・多受診、多剤服用、高血圧未受診、状態不明&ポピュレーションアプローチ：通いの場における健康教育)、③企業が実施主体のフレイル健診での事後指導。事業に際しては、マスク着用、検温、消毒、換気等感染予防に配慮し実施している。

◎青森県在宅保健師の会 【会長】 新井山洋子 【会員数】 193名 (R3年10月現在)

- 役員会(年4回)と会報(年3回)は例年通り実施したが、総会、ブロック別交流会・研修会は中止となった。
- 新任等保健師育成支援事業や小規模保険者支援事業は、感染対策を講じて例年通り実施した。
- 市町村等支援として、①保健所の新型コロナウイルス感染症の電話相談、②市町村における新型コロナワクチン接種業務支援、③IHEATへの登録(15名)を実施した。
- 地域保健福祉活動として、R3年度は4団体に対し助成し、コロナの状況に応じた活動内容を感染対策を行い実施している。

◎岩手県在宅保健活動者連絡協議会 【会長】 阿部恵美子 【会員数】 87名 (R3年10月現在)

- 総会、研修会、役員会等、参集するものはR2より中止が続いている。参集の機会が減少したことから、R2の会報発行時より「近況報告」の欄を追加し会員間の親睦が深められるようにした。
- 6地区各地でコロナ禍においても感染症対策をしながら介護予防等の様々な活動は実施した。
- IHEATとして10名登録。また1市に対して新型コロナワクチン集団接種業務の支援を行った。

◎宮城県在宅保健師活動者連絡協議会(けやきの会) 【会長】 久道光子 【会員数】 77名 (R3年7月現在)

- R2は新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、総会は書面開催、研修会は中止となった。
- 保険者支援では、「元気な高齢者支援事業」として毎年7~10保険者を支援していたが、R2は2保険者の支援にとどまった。自宅で行える「フレイル予防・改善」のための軽運動や栄養改善についての健康教育、もう一つは「おしゃれ講座」として感染予防対策を行った上で実施した。

◎福島県在宅保健師の会「絆」 【会長】 七宮ひろみ 【会員数】 76名 (R3年9月現在)

- 役員会は年2回(うち1回は書面開催)、総会は書面開催、研修会は中止となった。
- 地区会活動として、県内4方部に「地区会」を設置し自主的に活動。市町村の電話相談事業に係る支援等を実施。会員同士の交流会はコロナの影響により実施なし。
- 受託事業として、特定保健指導率低率保険者支援事業：実施体制が整わない保険者を一時的に補完するため、会員協力のもと個別訪問による特定保健指導を実施。(従事する会員に対し資質向上のための研修も実施)
- 後期高齢者医療重症化予防事業として、委託を受け生活習慣病等の重症化に課題がある者に対する保健指導を実施。
- IHEAT登録13名。
- 新型コロナウイルス感染症関連業務への協力等を行った。

各県の報告を受け、意見交換を行った。

※次回の当番県は、
福島県です。



連絡会議に参加して

上越支部幹事 若井 和美

リモート会議初体験の不安を感じつつ、役員とともに参集した。運営全般を国保連事務局に担っていただいたことに感謝している。各県の在宅保健師会や他職種の加わる会からの活動報告や意見交換も活発になされ、一同に会しているような臨場感があった。国保中央会からの保健、介護予防事業一体化について、現状や期待される役割を知り、さらに自信ある地域活動につなげたい。「島の保健室」は、準備、立ち上げに各々2年を経た今、着実に進展しており、佐渡会員個々の力を感じる。和モダンに改装した古民家で通いの場を提供しているが、専門性を生かしつつ、利用者が主体となるように支援するほか、他団体への場所貸しもあり、その機能は全島への拡がりがある。会場と周辺の景色をドローン映像で見せていただき、さらに印象に残った。

今後ますます地域の健康づくりや介護予防事業の一役を期待されるものとして、この連絡会から得た多くの学びを活かして支部活動を拡充していきたい。

ブロック別研修報告

参加総数 52名
参加率 47.7%

上越支部

いい汗と冷や汗を交互にかいた楽しい研修会。支部役員^の提案により、11月3日新潟日報社等主催の「知る、学ぶ『福祉・介護・健康』in上越」の一講座に会員7名で参加した。“ごぼう先生”こと介護のアイドル^{やなせひろし}築瀬寛先生の「座って楽しく介護予防運動」は、椅子に腰かけての5秒体操や数字抜きゲーム等実技中心で、気合が入った。固くなった頭と体をフル回転させた結果、冒頭の感想となったのだ。会員が地域で運営しているイキイキサロンで大いに役立つ内容であった。講座終了後にはお洒落なカフェで幹事会報告と情報交換会を行った。互いの変わらぬ姿に安堵し、とりわけ今でもバレリーナのように全開脚できる大先輩の話は圧巻で、我々会員の希望の星となっている。（記 小菅 誠子）



長岡・柏崎 魚沼支部

10月16日17名出席のもと長岡市福祉保健部健康課地域健康づくり班の保健師から「長岡市のコロナ禍の健康二次被害と保健師活動について」というテーマでご講演いただいた。他機関へのインタビューでは、地域包括支援センター、障害者の相談支援センター、コミセン、社協などからの多くの生の声が聞かれた。地区活動では、コロナ禍に巻き込まれながらも活動されてきた様子を伺った。地区担当保健師全員で高齢者の訪問を実施したり、住民の暮らしを聞く訪問を実施したことで一方通行だった地区活動が住民とのやりとりの中で展開していくようになったという。コロナ禍の住民の健康二次被害やコロナ禍での保健師の着実な地区活動の様子を知ることができ良い刺激となった。今回の学びを今後の活動に活かしていきたい。（記 和田多紀子）



新潟第一 支部

感染者が減少した10月21日に7名の参加で、秋葉区健康福祉課地域保健福祉担当松田優子係長より「新潟市のコロナ禍における保健活動について」講演して頂いた。昨年は感染症発生により保健所応援業務と地区活動や保健事業を見直すきっかけとなり、今年はワクチンチーム立ち上げに、委託事業者と会場運営に従事し、土日の接種業務を行っているという説明を受けた。参加会員は接種予約で苦慮した経験と、3回目接種の報道もあり、トップの意見に振り回される事なく、地元住民にあった方法で等要望がでた。この災害級の感染症対策の関わりから、様々な困難を乗り越え、保健師としてスキルアップしている後輩を頼もしく感じられた。（記 清野智満子）



実施期間：令和3年9月～11月

新潟第二・ 三条支部

11月13日、支部の研修会を実施しました。今回は元気に過ごせるよう「コンディショニング」について健康運動指導士の川本朝子様をお迎えし学びました。身体には使いすぎの筋肉と使わなさすぎの筋肉があり、筋肉がアンバランスになり姿勢が崩れます。そのことで不調にもなります。コンディショニングで姿勢を整え日常生活が楽になることを学び、寝ながら力を入れないで身体を動か



令和3年度 支部総会

かし歪みを取る。足指をしっかりと開いて分ける、足首を回す、膝をのばすなどを実践。最後に立つとしっかりした姿勢になっていました。正しい運動の大切さを再認識です。参加者が8人と少なかったのが残念。それでも久しぶりのおしゃべりと身体がスッキリで楽しい時間となりました。（記 渡辺満里子）

新発田・ 村上支部

9月14日9名の出席のもと、新年度の活動計画等を目的にブロック研修会を開催しました。コロナ禍で少々緊張しながらの開催でしたが、久しぶりの再会であり、それぞれの近況も知りほっと元気になれたひと時でした。新年度もひとり一人の立場で無理をせず



に今までの経験を活かしながら活動していこうと確認しました。◎健康劇のシナリオの再検討（2名の代表で検討後に11月に確認し完成させる）◎運動をテーマに1月に研修を行い、会員の健康維持とボランティア活動に役立てる。◎現職保健師との交流は継続しお互いにメリットのあるものにしたい。//飲食の無いちょっと寂しい気がした会でしたが、皆と逢って話せた事はそれ以上に心は満足感でいっぱい

の研修会でした。（記 石川 吉子）

佐渡支部

コロナの緊急事態宣言解除を見計い日程調整したが、ワクチン接種支援や農繁期を迎えていた会員が不参加となり、例年の半数以下の4名で10月9日に開催した。

今回は今年12月3日に予定されている東北地方在宅保健師等会連絡会議での活動報告に向けて、発表内容の検討を中心に今後の支部活動の方向性なども話し合った。「ほっとハウス青木という場を、保健師としての役割をいかした特色ある居所にし、必要な方に使って頂けると良い」「気楽な相談場所に」「コロナが落ち着いたら子供たちを対象としたイベントも企画したいね」と様々な意見が出た。高齢化も加速している



ので、認知症のチームオレンジの活動などを視野に入れた研修も近々企画したいと考えている。（記 土屋 貴子）

コロナ禍で体験したこと・感じたこと

長岡・柏崎・魚沼支部
和田多紀子

「新型コロナウイルスワクチン接種プレ予診の報告」



プレ予診

この度、長岡・柏崎・魚沼支部の会員8名が、令和3年6月20日から長岡市で行われた、新型コロナウイルスワクチン接種プレ予診に従事しました。長岡市健康課の保健師を通し、新型コロナウイルスワクチン接種事業室から、燈々会へ依頼を受けたものです。

プレ予診では、医師による予診前の相談や質問を受けました。

医師の負担軽減と円滑な接種が目的です。そこで求められたのは「丁寧な聞き取りと説明、質問に答えられる知識及びそのアップグレード、不安な気持ちの受容」でした。

依頼から従事まではとてもスムーズでした。その理由は次の2点だと考えました。「会員が長岡市の各種保健事業に従事しており、市保健師との信頼関係があった。先輩会員の実績により、燈々会として仕事を受ける形が確立されていた」ことです。

従事した会員からは次のような感想を聞き取りました。「市の保健師との関係性の大切さを感じた。食物アレルギーについて勉強になった。国を挙げての事業に従事しているという喜びを感じた。行政の保健師は、許容量を超えての業務を行っていると感じた。今後も依頼があったら無理のない範囲で協力したい。」などです。

プレ予診従事者の聞き取りを通じて、在宅保健師がさまざまな思いを持っていることを知りました。

これを記録として残し、今後の活動の参考にしたいと思います。



特定健診

「その他の事業で体験したこと・感じたこと」

(1) 母子保健事業

○乳児相談では、「子育て支援センターに行きたいが行けない」という母からの声が多かった。

○こんにちは赤ちゃん訪問は、コロナ禍を理由に断られることもなく普通に訪問できた。

(2) 成人保健事業

○特定健診会場での、保健指導コーナーへの従事依頼がキャンセルになることが多かった。

○健診会場ではフェイスシールドと手袋を着用し、受診者専用のボールペンを区別し消毒を行った。

○時間を区切って予約を取っているため、受診者の流れは密にならずスムーズだった。

○乳がん検診での健康教育について「できるだけ短時間で行う」「乳がんのモデルに触れるのは初めて検診を受ける人のみ」と、市の保健師からの指示で制約があった。

(3) 国保重複多受診者への訪問

○国保年金課から燈々会へ派遣依頼があり、4名従事し、一人当たり2～3人担当したが、この時期の訪問は迷惑だと断られた方も多かった。

(4) その他

○救護の依頼や介護予防事業等の依頼は、感染状況によりキャンセルになることも多かったが、ワクチン接種が進み感染者数が減ってからは救護の依頼が増えた。

「ハッピーベビークラブ」で育児を楽しむ意識づくり ～with コロナ時代の教室運営とつながりについて～

燕市健康福祉部健康づくり課

燕市では、栄養・歯科・沐浴や妊婦体験など子育てに必要な知識と、仲間づくり・気持ちの共有・つながりづくりといった子育てに大切な意識の2軸で、妊婦・両親学級「ハッピーベビークラブ」を実施していた。令和2年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止およびアンケート結果から教室の内容を見直し取り組んできた。その活動内容と成果について報告する。

＜これまでの教室での取り組み＞

近年、情報入手の手軽さ、核家族化、参加者のニーズの変化とともに、「何を大切にすべきか?」「行政が行う意味は?」をスタッフで語り合い、教室の意義を模索した。出産後も夢を持ち安心して育児を行うための「つながりづくり(夫婦・地域・センター)」に主眼を置き、妊婦同士が気持ちの交流ができる場づくりを意識した教室を始めて15年以上経過していた。

＜コロナ禍での取り組み＞

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、教室の内容を変更せざるを得なくなった。また、アンケート結果からも抱き方やおむつ交換、沐浴の仕方など育児に対する手技の希望が多く、少子化で赤ちゃんと接する機会が少ない時代の課題が見えてきた。三密を避け、短時間で参加者の満足度の高い教室の運営を検討。1回完結型予約・少人数制で、保健センターとのつながりづくりを重点に、育児の楽しさ大変さの両面を夫婦に感じてもらうこと、スタッフが積極的にプラスメッセージを送ることを意識した教室に変更した。

＜活動成果＞

コロナ前の教室の参加は毎回30組、参加率は約25%を維持し、経産婦のリピーターもおり、参加者の満足度(とても満足34.7% 満足61.8%)も高かった。夫がより妊娠・出産を自分事に考える機会にもなっており、アンケート結果からも、燕市が大切にしてきた2軸は、今でも求められていた。また、教室で意識したつながりづくりは、保健センターで実施している2か月児育児相談会の参加率が、平成23年度の38.1%から平成30年度64.6%と上昇しており、切れ目のない支援につながったものと考えられる。

また妊婦同士のつながりでは、育児相談会で再会し、誘い合って子育て支援センターにも出向くなどの広がりもみられていた。

平成27年度からは子育て世代包括支援センター機能を備えた窓口が開設され、より妊婦の状況を把握したうえで教室でも関わることが可能になった。

今後は、アンケートを継続し、教室の更なる内容の見直しに生かしていく。さらに、SNSでつながりを求めている世代でもあるため、令和2年度からオンライン相談を開始し、つながりの幅をひろげる機会となっている。



新潟県内初！3歳児健診における屈折検査の導入後の成果について

令和元年度より、3歳児健診にて、視力検査に加え、新たに視能訓練士による「屈折検査」を導入することで、より精度の高い視覚検査を実施し、屈折異常の早期発見・早期治療につながられるようになったため、その経過および成果について報告する。

家庭用の視力検査キットの見直し、視力検査の動画制作、健診会場での視力検査の実施、視能訓練士による屈折検査を導入。導入後、3歳児健診受診児の約1割が精密検査の対象となっており、医療機関に受診した児の約9割に目の異常が発見され、早期治療につながっている。また、保護者からも「検査するまで、気が付かなかった」と視覚健診の役割は大きいと実感している。

視覚の感受性は、生後急激に上昇し、1歳半頃まで感受性の高い時期が続き、その後は徐々に下降し、8歳位でほぼ視覚の成長が止まると言われている。したがって、就学前に弱視を発見することの意義は大きい。



米寿を迎えて

上越支部 西島弘子



先の短い人生ですが、潤いのある生活を送っていくには、健康が一番大切です。

体調を保っていくために、庭の草取りなどで、体を動かします。又町内の俳句の会に入り、苦しみもありますが上手に出来た時は嬉しさで胸が一杯になります。気分転換で田圃道を歩きます。稲の育ちがすばらしく、声をかけると穂を上下にゆらして返事をくれます。この残暑で稲の実りがよくなり頭が重くなると、皆さんの待っている所に行く事を楽しみにしているよと胸に聞こえてきます。人生を楽しみたいと云う気持ちを持っている事は、元気の源と思っています。これからも社会の一人、家族の一人として心豊かに楽しんでいきたいと思ひます。

【会員のひろば】

茶の間と私

佐渡支部 原 ナツ



現職を退いてから15年余り、現在は私の住む集落で月1回開催されるお茶の間でお手伝いをしています。110回も継続されていましたが、コロナ禍のため、約1年中止されていましたが、5月から再開され、又、お手伝いしています。前々から月1回の開催では物足りないと思っていたところ、島の保健室で、毎週日曜日開かれることになり、出来るだけ協力したいと思い、出掛けています。ボランティアとしてももちろんですが、私も参加者の一人として楽しんでます。

笑顔でほっこり

新発田・村上支部 石川 吉子



退職後も介護予防の教室に従事しています。多職種の若い人達とのチームでの仕事なので思いや考え方には多少の違いは感じますが、新しい知識や最近の話題にも触れられ、自分もちよっと若くなった気分で背伸びしたりとメリットも沢山あります。役割は見失わない様に心掛け楽しく続けています。趣味は幾つかありますが最近は笑い文字の講座を仲間数名とオンラインで始めました。書いている自分が先ずほっこり笑顔になれる事が不思議です。幸せな楽しい笑顔を沢山届けられますように!!

ふにゃふにゃ体づくりを 楽しんでいます

新発田・村上支部 羽田野孝子



退職後元気を無くしていましたが、ペルビックヨガを始め体づくりができてくると、やる気がでて走りたくなったのには驚きでした。年と共に筋肉が固くなり老人体型になってしまうと解り、毎日1時間かけて足の裏側、尻、背中を意識して動かし弾力を保つよう心がけています。上下MからSサイズに変わり動きも軽くなりました。これを介護予防に取り入れてもらいたいと考えています。体力測定を兼ね飯豊連峰山開きに友人を誘って行ってきました。滝雲にも出合え最高でした。

癒やされて!!

新発田・村上支部 安達 ミチ



社会福祉法人虹の家で看護職として週4時間勤務しています。知的障がい者施設で働きたいと思っていましたから依頼があったときは即座に了解し、約70名の通所者のうち7~8名の生活介護班で支援員と一緒に生活支援をやってます。ほとんど会話は出来ないのですが、利用者さんの意思を尊重し、表情や身振りを活用して、本人がどのようにしたいかを確認しながら作業支援をしています。私も「ありがとう!!上手に出来ましたネ!!」と思いきり心を伝えながら、純真な笑顔に癒やされています。

※は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったもの

1. 会議

- (1) 総会 令和3年4月27日
於 新潟県自治会館別館 17人出席(委任状83人)
(2) 役員会 5月11日、7月19日、8月24日、10月22日、12月20日
2月28日、3月17日
(3) 幹事会 7月19日(第1回保健活動意見交換会)
12月20日(第2回保健活動意見交換会)
(4) 編集委員会 6月24日、8月5日、10月26日、12月23日、
2月5日
(5) 推薦委員会 12月14日

2. 事業

- (1) 事業関係
1) 記念講演会 ※中止
2) 研修会
・会員の親睦を兼ねた研修旅行 ※中止
・ブロック別研修会 6ブロックで実施
3) 高齢者ふれあい事業: 令和3年度実施6地区

Table with 4 columns: 支部, 名称(申請者), 支部, 名称(申請者). Rows include 長岡・柏崎・魚沼, 新潟第二・三条, 新潟第二・三条, 佐渡.

(2) 協力関係

- 1) 県民介護知識・技術習得講座への協力
6月18日 石川玲子(新潟第二・三条)
10月5日 近百合(新発田・村上)
12月9日 石田奈津子(新潟第二・三条)
2) 第26回にいがたねりんピック救護への協力(種目毎)
5月3日 テニス: 目黒恵子(新潟第二・三条)
5月8日 ソフトボール: 戸根節子(新発田・村上)
5月26日 ゲートボール: 大橋芳子(上越)
5月30日 卓球: 吉田増美(新潟第二・三条)
ソフトテニス: 加藤隆子(新潟第一)
3) 第71回新潟県民福祉大会救護への協力
10月20日 新潟ユニソンプラザ 目黒恵子(新潟第二・三条)
4) 粟島浦村特定健診等業務への協力
* 特定健診: 5月20~21日 4名
安達ミチ・片原裕子・近百合・塚野郁子
* 結果説明会: 7月8~9日 3名
片原裕子・塚野郁子・戸根節子
5) ハンセン病療養所施設訪問 ※中止
6) 新潟県藤楓協会総会 書面総会
7) 結核予防協会事業への協力(複十字封筒・シール)
8) 新潟県看護連盟通常総会
6月26日 新潟東映ホテルにて開催
励ましのメッセージをメール送信

(3) 会員の福祉

- 令和3年度入会(0名)
令和2・3年度退会(5名)
上越: 高橋順子、山崎京子(R3.3未退会)
長岡・柏崎・魚沼: 五十嵐久代(R3.4死亡)
新発田・村上: 須貝文子、富樫静江(10条5年経過R3.3未退会)
米寿の方への慶祝 上越: 西島弘子(S8.11生まれ)

- (4) 「燈々会だより」第39号は令和4年3月発行
(5) 新潟県国民健康保険団体連合会主催の研修会・講習会等に積極的参加
1) 国保診療施設協議会のセミナー
11月27日 於 アートホテル新潟駅前
2) 市町村保健事業従事者研修会
令和4年1月19日オンライン配信
3) 住民とともに作る健康なまちづくりシンポジウム
※中止
4) 東北地方在宅保健師等会連絡会議
12月3日 新潟県自治会館別館にてリモート会議
安達会長「都道府県在宅保健師等会全国連絡会役員会役員」就任
任期: 令和3年10月1日~令和5年9月30日までの2年間
5) 長岡市特定健診受診勧奨事業アンケートに協力(9月)

3. 運営について

会員の増加策が課題
会員数 令和3年12月末現在 109名(うち10条会員3名)

令和3年度 役員・支部幹事・委員名簿

- ◇役員
会長 安達 ミチ
副会長 永戸 恵子 遠藤今朝枝
常任幹事 青木 智子
会計 石田奈津子
監事 清野智満子(新) 笠原 孝子(新)
◇支部幹事
上越 若井 和美
長岡・柏崎・魚沼 和田多紀子(新)
新潟第一 清野智満子(新)
新潟第二・三条 渡辺満里子
新発田・村上 石川 吉子
佐渡 土屋 貴子
◇編集委員
委員長 池田 英子
委員 神保由美子 塚野 郁子
◇推薦委員
委員長 長沼 典子
委員 若井 和美 柴木 文恵

入会のお誘い 是非お仲間!!
年会費 4000円
各支部会員に
お申し出ください。

おくやみ
謹んでご冥福をお祈りいたします
●長岡・柏崎・魚沼支部 五十嵐 久代 姉
令和3年4月5日逝去

編集後記
新型コロナ感染拡大から2年が経過した。ワクチン接種が始まり、治療薬も普及してきた。ようやく新規感染者や死亡者が減少し、収束かと思われたが…。年明けからオミクロン株による感染の急拡大が始まった。令和4年度も、燈々会研修旅行は、お預けになりそうです。安心して旅行に行けるのはいつの日か! 早くその日が来ますように!! (編集委員 塚野 郁子)